

第38回(2026年)タイムス全沖縄少年少女空手道大会

競技規定

第1条 服装

- 1 競技者は、白色の空手衣を着用し、ナンバーカード(ゼッケン)を上着の背面中程に、しっかりと縫い付けなければならない。(安全ピンは認めないが、両面テープの使用は可とする)
- 2 空手衣の裾や袖を表側に折り曲げたりしてはならない。折り曲げる場合は、裏側に折り、しっかりと縫い付けなければならない。
- 3 空手着の左胸や袖に代表を示す「沖縄」の表記がある場合は、布等で覆い隠すこと。
- 4 女子の競技者は、空手衣の下から白色Tシャツの着用を認める。ただし、白色であっても文字や模様、絵柄などが審判員から視認できるTシャツは認めない。男子の競技者は、原則としてTシャツの着用を認めない。
- 5 眼鏡を着用する場合は、メガネバンドで補強するなどして落下しない措置を施さなければならない。落下した場合、選手は即座に演技を中止すること。
- 6 帯は所属道場の級位、段位の帯を使用する。競技空手用の赤帯の着用は不可とする。
- 7 身体につける装飾品(ミサンガ、ピアス等)は一切認めない。ただし、髪を結ぶためのゴムは黒系の色のものは認める。
- 8 競技者の服装に違反があり指摘を受けた場合は、競技前までに是正しなければならない。是正されない場合は減点とする。
- 9 審判員の服装は、半袖白ワイシャツ、黒色又は紺色系のズボン、大会指定のネクタイ、白色の靴とする。
- 10 監督の服装は、白色の空手衣又は白色のTシャツもしくはポロシャツ(無地又はワンポイントのデザインは可)と、ジャージの長ズボンとする。保護者が務める場合も同様とする。

第2条 競技チームの構成

- 1 競技チームは、3名又は4名で編成するものとし、男子のみ、女子のみ、又は男女混成でも構わない。
- 2 当日競技チームに欠員が生じた場合、同クラス又は下のクラス(同クラスより学年が若いクラス)より補充1名のみ認める。ただし、補充選手が遅れるなど競技進行に支障をきたした場合は、別記採点基準のとおりの得点とする。なお、選手を補充する場合は、競技チームの監督は大会審判長又はコート長にすみやかに連絡しなければならない。
- 3 当日競技チームに欠員が生じ、補充される選手は、他の1チームのみ出場を認める。(同一の選手が補充の掛け持ちは認めない。)
- 4 当日競技チームに欠員が生じ補充選手を獲得できない場合は、2名で演技することは認めるが、得点は採点基準のとおりとする。
- 5 当日競技チームに欠員が生じ競技者が1名の場合は、出場を認めない。
- 6 当日の選手変更については、午前8時30分から各クラスの競技開始の一時間前までに第一練成道場の選手変更受付窓口申し出ること。それ以外は認めない。

第3条 競技役員、審判団の構成と心得

- 1 審判員は三段以上の段位を有する者(20才以上)とし、各コート7名または5名で構成する。
- 2 各クラスの競技中における審判員の変更は、原則として認めない。
- 3 競技役員は20才以上とする。

第4条 競技方法と運営

- 1 競技方法は、大会規定で指定された型一覧表の中から選択して演技し、得点方式により順位を決める。
- 2 型の選択は級位取得の範囲内とし、事前に申告した型を演武しなければならない(大会当日の型変更は認めない)。

- 3 競技チームの並び方は自由であり、演技中、コートから外に出た場合でも、減点の対象としない。
- 4 競技場境界線から入場後、立礼し、演技型の名称を明瞭に呼称し、主審の合図で演技を開始する。
- 5 演技が終了したら、その場で立礼し、所定の位置で審判員の採点を待つ。告示員が得点をコールしたら立礼し、所定の場所へ移動する。
- 6 原則として、立礼は3回とし、演技中における気合は3回以内とする。
- 7 採点は7.0から9.0の範囲とし、表示された採点から最低点と最高点を除いた点数を合計し、得点とする。その得点が同点の場合、除かれた点数の最低点を加算する。さらに同点の場合には最高点を加算する。それでも同点の場合は、再試合とし、競技チームは同一の型かそれ以外の型を演技する。再試合の結果、得点が同点の場合は、両チームともに優良賞とする。
- 8 主審は判定を求め呼笛する。副審はそれに合わせて一斉に自己の採点表を右手に持ち、得点員にはっきり見える様に表示する。審判員は告示員が審判員の得点を声明した後、採点表を裏返す。
- 9 告示員は得点を声明した後、主審の呼笛とともに採点表を取り下げる。競技チームは立礼して退場する。
- 10 競技上、疑義が生じた場合は、各コートの監査を通して競技委員長に図ること。

第5条 判定基準

- 1 型は、次の点に着眼し判定するものとする。
 - (1) 規範性（姿勢、立ち方、手の位置、目線、運足、突き蹴りの角度及び正確さ、技の方向）
 - (2) 技の極め（力強さ、残心、緩急、気迫）
 - (3) 機敏性（終始の動作、技の遅速）
 - (4) 演技力（演技中の動作、全体的な調和）
 - (5) 全体の統一性（入退場、服装、節度ある態度）

【採点基準】

(最低得点を表示する場合)

- | | |
|-------------------------------|-----|
| 1 チームに当日欠員が生じ、2名で演武した場合 | 7.0 |
| 2 チームの選手が申告型と異なる型をした場合 | 7.0 |
| 3 大会が指定する別紙型一覧表以外の型をした場合 | 7.0 |
| 4 選手招集に遅れる等、正規の演技順に間に合わなかった場合 | 7.0 |
| 5 演技が途中で停止し、続行不可能となった場合 | 7.0 |

(演技における減点基準)

- | | |
|---------------------------------|---------|
| 1 競技者の1人がぐらつきやブレるなどバランスを失った場合 | 0.5～0.3 |
| 2 号令による演技をした場合（演技開始時の号令合図は良とする） | 0.1以上 |
| 3 規定に反する服装の場合 | 0.5～0.3 |

《参考資料》 沖縄空手道型の名称 ※演武する型は下記から選択してください。

三戦(サンチン)	ゲキサイ(第一・第二)	普及型(一)	ニーセーシ	
完子和	サイファー	普及型(二)	チンティー	ジッチン
完周(第二セーサン)	セーエンチン	ピンアン(ハイアン)	ジッティー	ムートーディー
十戦(セーチン)	シソーチン	ナイハンチ	ソーチン	オーハン
セーサン	サンセールー	アーナンクー	パーチュー	十六(セールイ)
セーパイ	ワンカン	ハイクー	ローハイ	パイポー
ワンスー(ワンシュー)	スンス	パッサイ	ジオン	

※同様の型名称で漢字表記も申請可。

大会当日の型変更は認められません(競技規定 第4条2)

「少年少女空手道大会」で演武できない型

完戦(カンチン)	クルルンファー	ゴジューシホ	ワンスー	創作系の型	サンセーリユー
スーパーリンパイ(パッチューリン)		チントウ	アーナン	クーサンクー	パイクー